

「防犯硝子を割ってみませんか。」

NPO 法人三重県防犯設備協会 理事長
伊勢日軽アルミ建材株式会社 代表取締役

藤村 喜成



「夜の校舎 窓ガラス壊してまわった」と尾崎豊が歌ったのは昭和60年、この令和時代、学校では行儀よく真面目で、公園では野球より屋内でのゲーム中心の遊びをする子供たちはめっきり硝子を割らなくなりました。しかし台風・竜巻などの災害もありますが、侵入盗によるガラス破壊は変わらず一定数あります。

三重県の刑法認知件数は平成14年の47600件をピークに対し、毎年漸減傾向の中、令和3年7410件に激減しております。これも警察関係の皆さんや地域の防犯ボランティア団体の皆さんの活躍によるものが大きいと思います。

私の経営する会社は「窓とドア」の販売・施工が主な業務ですが、メンテナンスも行っており、ガラスが割れた場合、現場に出向きます。中には不幸なことに侵入被害にあわれた方もおられます。お見舞いを申し上げ当然至急の復旧対応を進めますが、防犯硝子や防犯フィルムの採用と窓補助錠の追加設置の開口部の強化策を併せて提案いたします。被害にあわれた方は、どうしたらいいのか困惑されている方も多いため、対策を説明するだけでも安心していただき、情報を素直に受け入れていただく場合が多いのですが、今まで知らなかったという方が多く、防犯としての予防策を、被害にあわれてない方にどう伝えるかは課題でありました。ガラスメーカーも宣伝広告で防犯硝子のPRは進めておりますが、何たるかまでは、なかなか浸透しません。

新築では、ハウスメーカーが防犯硝子を標準採用するなど、開口部の防犯対策はしっかりとられるようになっては来ていますが、ストック住宅においては取り換えるには手間とコストがかかり二の足を踏まれるのが現状です。

一般の方に防犯対策としての窓、硝子を知っていただく機会としては、私の所属するNPO法人三重県防犯設備協会で、防犯設備展示説明を目的とした各種イベントを主催したり参加したりしております。その中で「防犯硝子の割れ実演」は観客参加型のイベントとして、開催要望が高く、ここ数年コロナ禍で実施は見送っておりますが、年間2.3件の実績はありました。



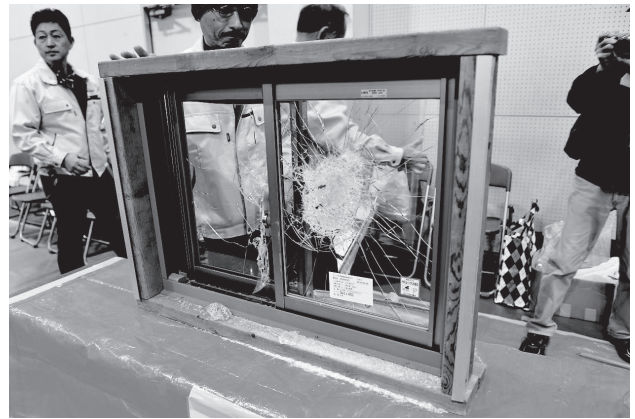
要領としては、透明板硝子3mmと防犯硝子を装備した小さいサイズのアルミサッシ引違い窓を設置します。観客の中から希望者をつのり、ハンマーで、「いち、にのさんで透明板硝子3mmを外表面よりたたき割っていただきます。硝子を割ったことがない人が圧倒的に多いので「簡単に硝子は割れる」とびっくりされます。割ったところからクレセントを開けて窓をあけて侵入された状態を再現します。次に防犯合わせ硝子をたたき割りしていただきます。割れますが穴は開きません。続けて6回、合計7回たたいてもらいます。打撃の大きな音とそれでも貫通しない硝子の状況をみて会場内の驚きがこちら側でも伝わるほどです。

すかさず、説明として①耐久性5分で泥棒はあきらめる場合が多いこと ②侵入等の経路は三分の一が無施錠の窓やドアから、三分の一が硝子破壊による窓からなので、錠の施錠確認と防犯硝子で3分の2は防犯対策が取れる。③防犯硝子だけでは不十分なので、サッシも補助錠を付ける、見通しの確保などの総合的な対策も必要と伝えます。

観客の反応やアンケートでは、防犯硝子の性能が理解できた、新築やリフォームの際はぜひ採用したいという意見をいただきました。一般の方への防犯性能を理解いただくには有効な仕掛けだと思います。

三重県ではマンションもありますが、居住形態は戸建てが多く、特に三重県南部では戸建て住宅お住まいの方が大半です。

三重県防犯設備協会では令和3年3月より「防犯優良戸建住宅認定事業」を始めました。認定基準の中に、防犯建物部品である防犯硝子も含まれております。この事業を通じて県民の皆さんに防犯ガラスをはじめとする防犯設備や防犯環境設計を広くPRし、一軒でも犯罪被害を少なくしていきたいと思っています。



「防犯硝子の割れ実演」